

**令和2年度**

**大阪市胃がん検診専門会議**

令和2年7月30日（木）

(1) がん検診について

①がん検診の種類と基本的な考え方

(2) 大阪市胃がん検診の実施状況について

①胃がんの現状（罹患・死亡）

②大阪市胃がん検診の状況について

(3) 大阪市胃がん検診の今後について

①大阪市胃がん検診の現状（課題）と対策

②大阪市胃がん検診専門会議検討事項について

## (1) がん検診について

### ①がん検診の種類と基本的な考え方

## (2) 大阪市胃がん検診の実施状況について

### ①胃がんの現状（罹患・死亡）

### ②大阪市胃がん検診の状況について

## (3) 大阪市胃がん検診の今後について

### ①大阪市胃がん検診の現状（課題）と対策

### ②大阪市胃がん検診専門会議検討事項について

# がん検診の種類と基本的な考え方

## がん検診の種類

検診方法	対策型検診	任意型検診
目的	対象集団全体の死亡率を下げる	個人の死亡リスクを下げる
概要	予防対策として行われる 公共的なサービス	医療機関・検診機関などが 任意で提供するサービス
検診対象者	構成員の全員 (一定の年齢範囲の住民など)	定義されない
検診費用	公的資金を使用	全額自己負担
利益と不利益	限られた資源の中で、 利益と不利益のバランスを考慮し、 集団にとっての利益を最大化	個人のレベルで、 利益と不利益のバランスを判断

出典：かかりつけ医のためのがん検診ハンドブック（平成22年3月発行）（厚生労働省がん検診受診向上指導事業）

がん検診によりがん死亡を減少させるためには、  
**有効ながん検診を正しく実施する**必要がある

①がん検診アセスメント

有効性の確立した検診  
がん検診ガイドライン

②がん検診マネジメント

徹底した精度管理  
精度管理の体制整備

質の高い検診

正しい  
検診

正しく  
行う

③受診率対策

死亡率減少

高い受診率

有効な検診を、より確かな質で、より多くの人に

# がん検診の種類と基本的な考え方

## がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針

(健発第0331058号 平成20年3月31日厚生労働省健康局長通知 平成28年2月4日一部改正)

種類	対象者	方法	実施回数
① 胃がん検診	50歳以上の者(胃部エックス線検査については、当分の間、40歳以上の者を対象としても差し支えない)	問診に加え、胃部エックス線検査、または胃内視鏡検査	原則2年に1回(当分の間、胃部エックス線検査を年1回実施しても差し支えない)
② 子宮頸がん検診	20歳以上の女性	問診、視診、子宮頸部細胞診、内診	2年に1回
③ 肺がん検診	40歳以上の者	問診、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	年1回
④ 乳がん検診	40歳以上の女性	問診及びマンモグラフィ	2年に1回
⑤ 大腸がん検診	40歳以上の者	問診及び便潜血検査	年1回
⑥ 総合がん検診	40歳及び50歳の者	①～⑤までに規定するすべてのがん検診を同時に実施するもの	1年に1回行うがん検診については当該年度において、2年に1回行うがん検診については当該年度及び次年度において、その実施を要しないものとする。

(1) がん検診について

①がん検診の種類と基本的な考え方

**(2) 大阪市胃がん検診の実施状況について**

**①胃がんの現状（罹患・死亡）**

**②大阪市胃がん検診の状況について**

(3) 大阪市胃がん検診の今後について

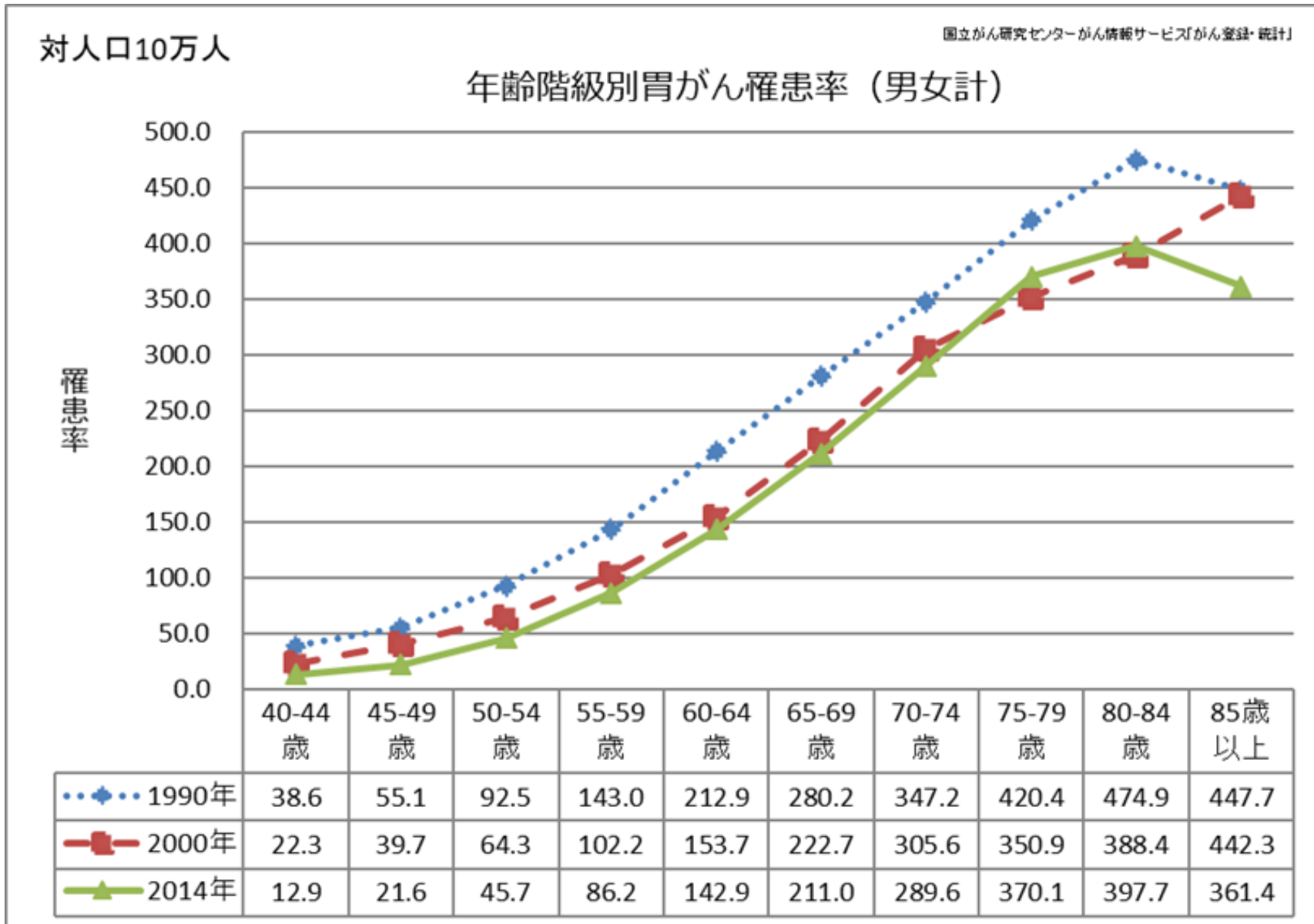
①大阪市胃がん検診の現状（課題）と対策

②大阪市胃がん検診専門会議検討事項について

# 胃がんの現状（罹患・死亡）

全国年齢別胃がん罹患率（男女計）

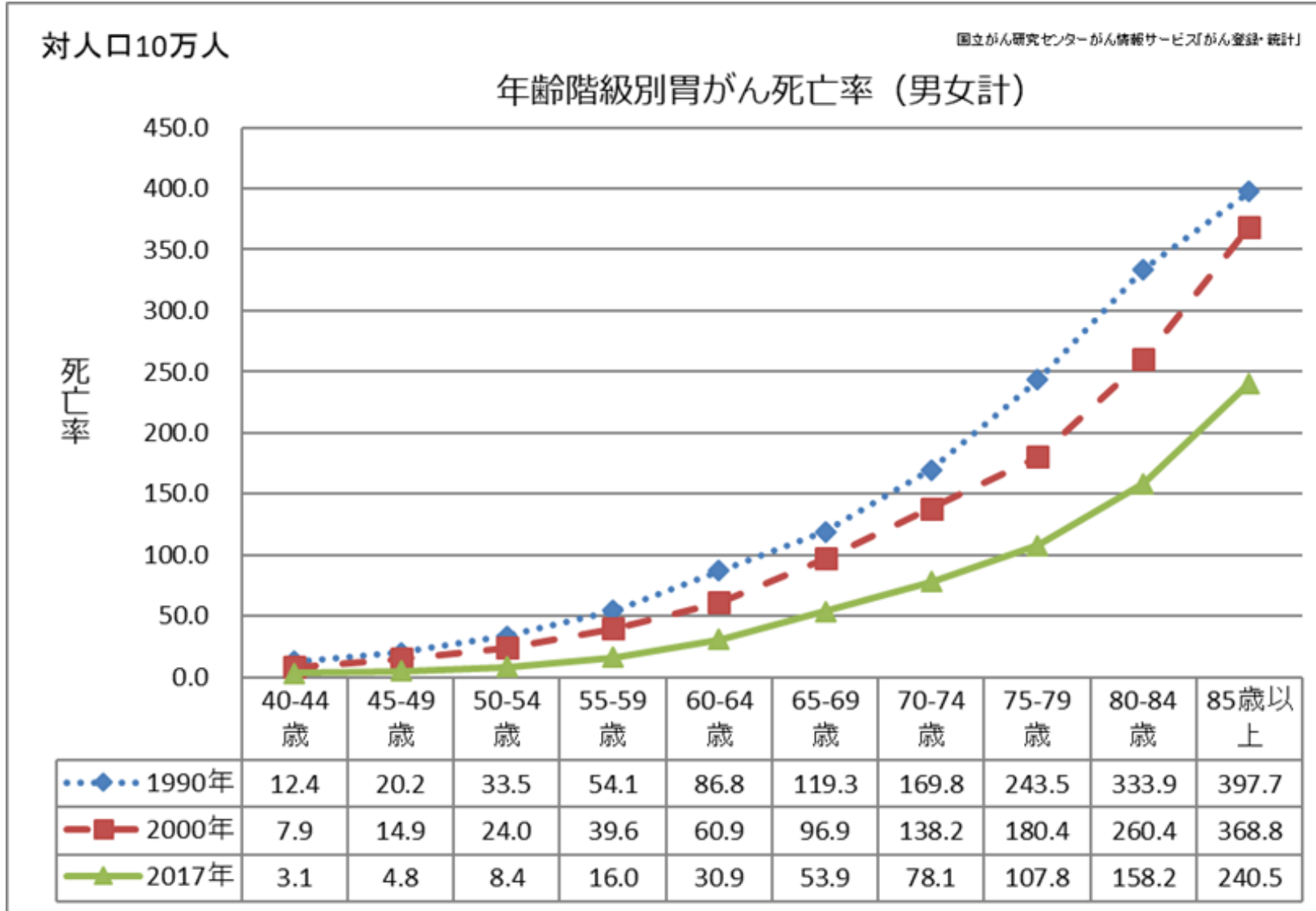
40歳代では1/3程度に減少



# 胃がんの現状（罹患・死亡）

全国年齢別胃がん死亡率（男女計）

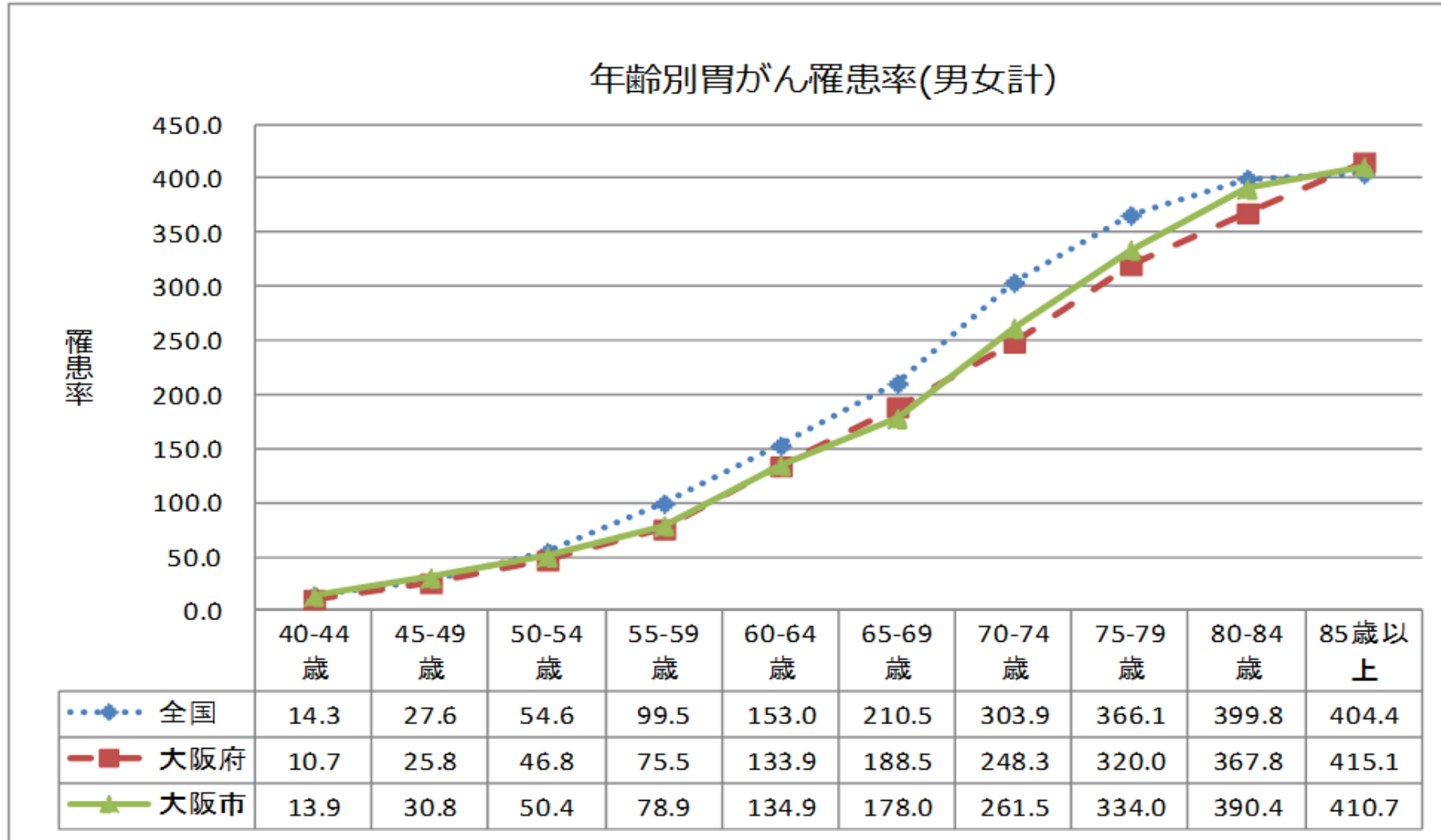
40歳代では1/5程度に減少





# 胃がんの現状（罹患・死亡）

- 全国・大阪府・大阪市 年齢別胃がん罹患率（診断年2010年）  
40歳代の罹患率は全国と同等、50歳以上については全国より低い



# 大阪市胃がん検診の状況について（胃がん検診に関するこれまでの流れ）

年次	国	本市
昭和58年2月	老人保健法施行／胃がん・子宮頸がん検診の開始（40歳以上）	昭和58年1月 集団検診開始
平成10年4月	「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（以下、指針）の策定 老人保健法にもとづかない事業と整理・がん検診にかかる経費の一般財源化	平成5年7月 個別(医療機関) 検診を開始
平成20年4月	健康増進法（第19の2）の健康増進事業としてがん検診を位置づけ	平成29年10月 胃内視鏡検査による胃がん検診導入
平成28年2月	指針の改正 胃がん検診対象年齢の引き上げ・検診間隔の延長、胃内視鏡検査の導入（「有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン2014年度版」）	
平成29年3月	第21回がん検診のあり方に関する検討会において、今後の論点として、「がん検診の対象年齢毎の推奨度について」が挙げられた。	
令和2年3月31日	がん検診のあり方検討会により、胃や大腸などのがん検診の受診を特に推奨すべき対象者を「69歳以下」とする中間報告をまとめた。 ※対象者の年齢についてはさらに検討が必要として、市町村が行うがん検診の方針を示す国の指針改定はすぐには行わず、引き続き議論していくとしている。	

# 大阪市胃がん検診の状況について

## 検診体制（令和2年度）

対象	40歳代	50歳以上
検診方法	エックス線検査	エックス線検査又は内視鏡検査
検診間隔	毎年	内視鏡検査を受診した翌年度は、 いずれも受診不可
自己負担	個別1,500円・集団 500円	個別1,500円・集団 500円
実施形態	集団／個別 集団検診は胃・大腸・肺がん同時実施	集団／個別 内視鏡検査は個別のみ
委託形態	集団：単年度入札方式 個別：大阪府医師会	
申込方法	区および検診実施機関へ直接電話等による申込	

※集団検診：指定の日時／場所で集団で検診

※個別検診：指定医療機関で個別に検診

# 大阪市胃がん検診の状況について（大阪市胃部エックス線検査仕様）

	指針	チェックリスト	大阪市（個別）	大阪市（集団）
対象年齢	50歳以上の者（胃部エックス線検査については、当分の間、40歳以上の者を対象としても差し支えない）		満40歳以上	満40歳以上
受診間隔	原則2年に1回（当分の間、胃部エックス線検査を年1回実施しても差し支えない）		年度中に1回	年度中に1回
撮影方法	「新・胃X線撮影法ガイドライン改訂版（2011年）」を参考にすること	日本消化器がん検診学会の方式	日本消化器がん検診学会基準（2011年発行）に順ずること	日本消化器がん検診学会基準（2011年発行）に順ずること
撮影技師		日本消化器がん検診学会による研修を終了 日本消化器がん検診学会認定技師		
読影	原則として十分な経験を有する2名以上の医師	原則として2名の医師（うち一人は日本消化器がん検診学会認定医）	十分な経験を有する医師	2名以上による二重読影 1名は日本消化器がん検診学会認定医を含む

# 大阪市胃がん検診の状況について（大阪市内視鏡検査仕様）

	指針	チェックリスト	大阪市（個別）
対象年齢	50歳以上の者（胃部エックス線検査については、当分の間、40歳以上の者を対象としても差し支えない）		満50歳以上
受診間隔	原則2年に1回（当分の間、胃部エックス線検査を年1回実施しても差し支えない）		2年に1回
実施	「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル」を参考にすること	「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル」を参考にすること	「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル」を参考に行う
ダブルチェック		読影委員会によるダブルチェックを実施 専門医が複数勤務する場合は、相互チェックも代替方法とする	自施設でのダブルチェック  日本消化器がん検診学会認定医 あるいは日本消化器内視鏡学会 専門医 申告書
読影委員会		日本消化器がん検診学会認定医 あるいは日本消化器内視鏡学会 専門医	